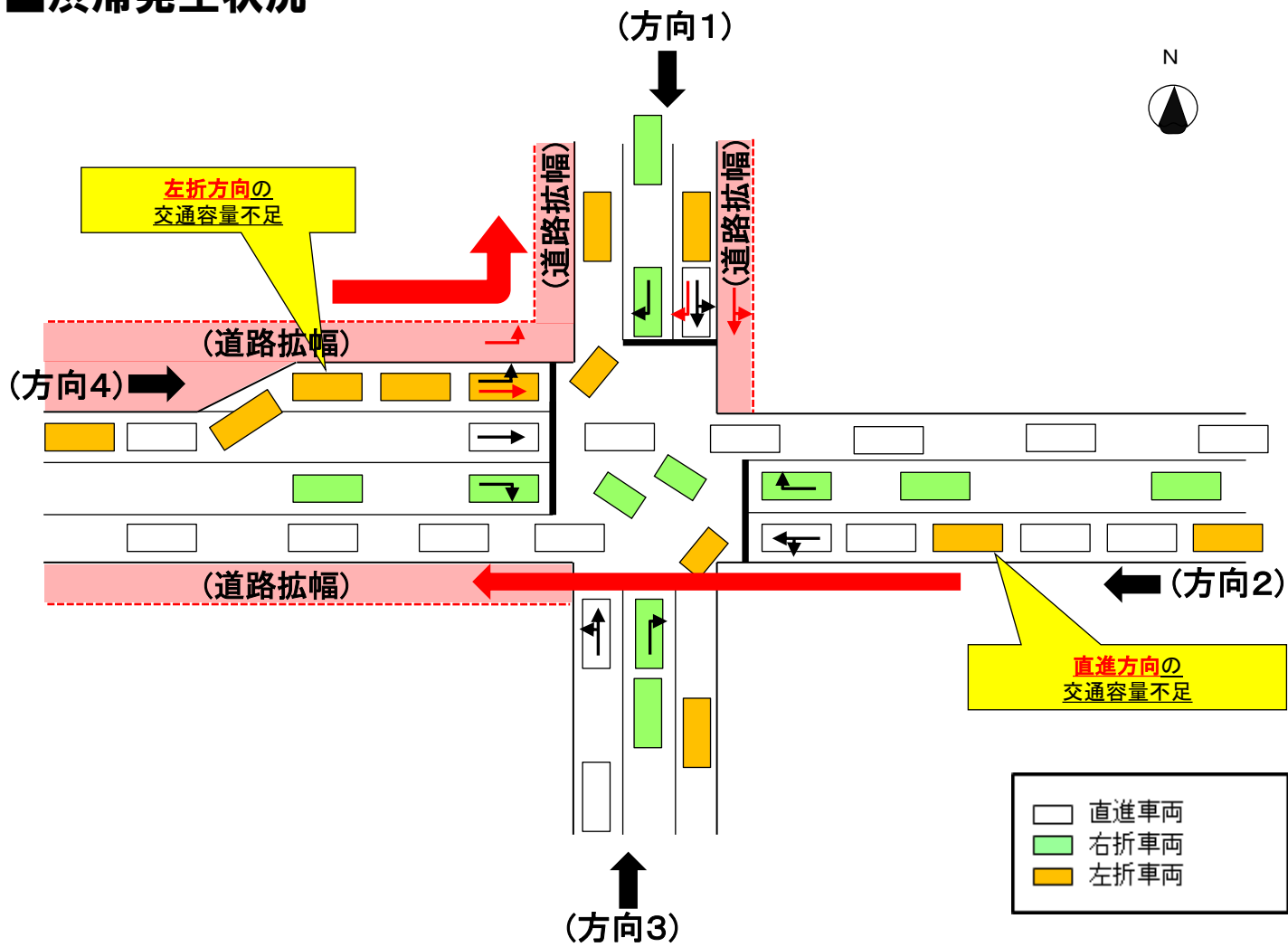


議題(1) 熊本都市圏の交通渋滞対策について

項 目	現状、これまでの取組状況、課題等
(1) 熊本都市圏の交通渋滞対策について	1 現状・背景 ・熊本都市圏の交通渋滞は慢性化しており、県内の主要渋滞箇所は283箇所（R5.9） ・そのうち、熊本市の主要渋滞箇所は175箇所、県内の約6割が熊本市に集中 ・3大都市（東京、大阪、名古屋）を除いて、主要渋滞箇所数は政令指定都市ワースト1 ・地域公共交通については、利用者の減少、事業者の経営悪化、サービス水準の低下となるなど負のスパイラル化 2 課題 ・TSMC進出を契機とし、都市圏の交通渋滞はさらに深刻化しており、基幹交通軸の一つであるJR豊肥本線の混雑率も121%となるなど、道路交通と公共交通を組み合わせた交通渋滞対策は喫緊の課題 ・都市圏における交通手段分担率は、昭和48年から令和5年までの50年にかけて、自動車交通はほぼ倍増（35.1%→67.0%）となる一方、公共交通は約1/3（14.4%→5.3%）まで大幅に減少 ・交通渋滞の解消に向けては、地域特性に応じて全体交通をリバランスし、自動車交通と公共交通を効率的に組み合わせ、利便性の高い交通体系「ベストミックス」の構築が必要 3 これまでの取組状況 ○トップ会談 ・7月18日に「熊本都市圏の渋滞解消に向けた熊本県・熊本市トップ会談」を開催し、課題や取組の方向性を共有。また「自動車1割削減、公共交通2倍、渋滞半減」との目標を掲げた。 ・7月29日には、県市連携して、道路整備推進やJR豊肥本線機能強化等に係る国への要望活動を実施 ○道路施策 ・即効性の高い対策として「スマート交差点」の整備を実施し、田迎3丁目交差点では渋滞長が約90%減少、南熊本3丁目交差点では渋滞長が約40%減少、バス走行時間が約6分短縮 ・都市圏の交通の円滑化を図るとともに都市の骨格を形成するため、熊本西環状道路を含む2環状11放射の道路を整備中 ・今年4月に「都市計画道路 花園上熊本線ほか2線」が開通したことで、上熊本駅前の県道熊本田原坂線では、約5千台の交通量が減少し、渋滞も約800m減少 ○公共交通施策 ・令和3年4月から全国初となるバス事業者5社による共同経営がスタートし、重複区間の最適化や共通定期券の発行など、公共交通利用促進策を実施 ・公共交通の利用促進やマイカーからの転換を図るため、ハード対策として桜町バスターミナルや熊本駅の整備、新水前寺駅等の交通結節点の機能強化や、ソフト対策として「バス・電車無料の日」等を実施 ・基幹公共交通の一つである市電の輸送力強化として、新たに現行定員の約1.5倍となる超低床形多両編成車両を今年度と来年度にそれぞれ2編成ずつ導入予定 ・AIデマンドタクシーやシェアサイクルの導入など、コミュニティ交通や二次交通を強化

■渋滞発生状況



▼渋滞発生方向の速度状況

■ 20km/h未満 ■ 30km/h未満 ■ 40km/h未満 ■ 40km/h以上

方向 1	
7時	23.6
8時	30.4
9時	38.8
10時	36.7
11時	38.9
12時	42.3
13時	40.5
14時	38.1
15時	39.1
16時	34.2
17時	18.2
18時	23.7

方向 2	
7時	21.8
8時	26.3
9時	27.2
10時	26.5
11時	26.2
12時	23.8
13時	26.5
14時	24.5
15時	20.7
16時	17.8
17時	15.0
18時	16.8

方向 3	
7時	21.9
8時	28.7
9時	31.5
10時	27.6
11時	29.0
12時	30.9
13時	31.0
14時	32.4
15時	31.9
16時	30.0
17時	27.0
18時	28.3

方向 4	
7時	11.1
8時	8.4
9時	11.9
10時	11.7
11時	12.3
12時	13.8
13時	12.2
14時	14.1
15時	12.2
16時	11.3
17時	11.8
18時	10.4

速度が遅い = 渋滞が発生

■施工前



■施工中(令和6年1月現在)



■ 信号制御と連携した交差点改良や公共交通と一体となった道路空間整備など

【取組みの概要】

- 右折左折レーン等の設置など、渋滞緩和に即効性のあるスマート交差点事業等も含めたハード対策を検討・実施していく。

また、連続する交差点では、対策した前方の交差点などで渋滞が発生する場合もあるため、信号制御の見直しとも連携し、線・面的に対策エリアを拡大していく。

【整備前】



【整備後】



< 取組み：交差点改良 >

- バス停周辺の整備やパークアンドライドの実施など、即効性の高い対策など、あらゆる手段を講じていく。



< 取組み：バス停周辺整備 >

< 取組み：パークアンドライド >

■時差出勤・テレワーク等の推進『4千人の行動変容！～“道路”にも“心”にもゆとりを～』

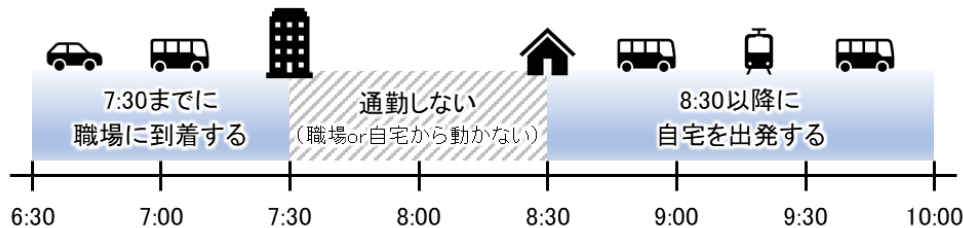
【熊本市トライアル】

期間 8/5(月)～8/16(金)

対象 熊本市職員

内容 朝ピーク時(7:30～8:30)を避けた時間帯に通勤

- ① 7:30までに職場に到着
- ② 8:30以降に自宅を出発



＜実施結果(速報値:8/5～8/14)＞

実施人数 **1日平均 3,020人** (目標値:3,000/日)

主な声

- ・ 渋滞が少なく快適に通勤できた、通勤時間が短縮できた
- ・ いつも満員の車内だが座って通勤できたのでストレス解消につながった
- ・ 早出にすることで暑さ対策につながった
- ・ 時差出勤を継続してほしい、業務の効率化につながった 等

⇒ 通勤時間の平準化を図ることで、**ピーク時の交通量を分散し、街なかへの流入交通量を低減！**

⇒ テレワーク(実施者:141人/日)と組み合わせることで、**多様な働き方ができる職場環境を構築！**

【県市連携の方向性】

9/2(月)～9/30(月)に、県市合同で時差出勤やテレワーク等を推進！ 目標は「1日4千人」

- 目的
- ・ 渋滞解消対策としては、朝ピーク時に集中する交通量を分散するソフト面の対策も重要
 - ・ 朝ピーク時の交通量を減らし、オフピークにリバランスすることで交通渋滞の緩和に繋げる

内容

- ・ 熊本県と熊本市の職員が朝ピーク時を避けた時間帯に通勤

目標

- ・ 熊本県と熊本市の職員合わせて**4,000人/日**が**時差出勤**または**テレワーク対応**

⇒ 10月以降は、都市圏自治体や民間企業まで対象を拡大予定→事業効果の最大化！

⇒ さらに、公共交通の利用促進に向けた取組も実施！（公共交通シンポジウムやプロモーション、交通結節機能強化 等）

議題(2) 地下水保全対策について

項 目	現状、これまでの取組状況、課題等
(2) 地下水保全対策について	1 現状・背景 台湾の半導体製造大手TSMC（JASM）の熊本進出により、第1工場が建設され、今年度から本格稼働を開始する予定である。 県では、受入れを円滑に進めるとともに更なる半導体産業の集積を図るため、令和3年11月に全庁横断組織「半導体産業集積強化推進本部」及びPTを立ち上げ、テーマごとに取組みを進めてきた。 同様に、熊本市でも令和3年12月に「半導体関連産業集積推進本部」及びPTを立ち上げ、環境保全に取り組むとともに、戦略的な土地利用についても独自に取り組んでいる。 このような中、JASMの第1工場の東隣に第2工場が建設されることが公表され、今後さらに地下水の使用量が増える見込みであることから、県市民の地下水保全に関する不安の声が高まっている。 このような県市相互の取組みの中、特に重要な共通の課題として以下の2点が挙げられる。 2 課題 ・ JASM等半導体関連企業の集積に伴い、地下水取水量が今後も増大する見込みであり、白川中流域の水田湛水や台地部でのかん養だけでは賄えない可能性がある。 ・ JASM周辺地域の開発等により地下水のかん養地である農地が減少し、自然かん養量も減っているため、農地によらない新たなかん養方法についての検討が必要になっている。 3 これまでの取組状況 (1) 地下水かん養の拡大に向けた取組み ○令和5年5月にJASMと締結した「熊本地域における地下水かん養推進に関する協定」に基づく取組み ・ 大津町瀬田地区における冬期湛水の開始等、湛水期間の拡大に向けた地元関係機関との協議（県、財団） ・ 水稲作付推進によるかん養の拡大（県、菊陽町） ○令和5年9月にJASMと締結した「熊本地域における冬期湛水事業推進に関する協定」に基づく取組 ・ くまもと地下水財団が実施している台地部における冬期湛水事業について、令和5年11月から事業の一部をJASMが費用負担し、かん養量の取組を開始。（財団） ○白川中流域水田湛水事業の推進 ・ 協力農家に対する湛水助成金の単価引き上げ（熊本市） ○地下水かん養指針の改正による取水事業者を求めるかん養義務の強化 ・ 地下水かん養指針を改正し、取水事業者を求める目標涵養量を取水量の1割から10割へと強化（県） ○水源かん養林整備事業の面積拡大 ・ 森林の持つ多面的機能のうち「水源かん養機能」に着目し、令和5年度（2023年度）末時点で、大津町や西原村など5町2村で約884ヘクタールの森林整備を実施。令和6年7月に西原村と新たな森林整備協定を締結し、今年度から10か年で35ヘクタールの森林を整備予定。（熊本市） ○雨水浸透施設の設置 ・ 熊本市地下水保全条例において、開発行為や建築を行う際に、雨水浸透ますなどの雨水浸透施設の設置を義務付けることで地下水かん養を推進。（熊本市）

【地下水監視体制の強化】

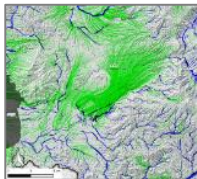
観測井戸の設置による地下水位の監視 県

- ・局地的な地下水位への影響の有無を早期に確認するため、令和5年度、セミコンテックパーク内に県内34箇所目となる観測井戸を新たに設置し、常時監視を開始。
- ・観測井戸の増設とともに、県民がいつでも地下水位をホームページ上で確認できるシステム構築に取り組む。



地下水取水等による影響のシミュレーション 県・財団

- ・熊本大学等により構築された水循環シミュレーターモデル「GETFLOWS」を活用し、大規模取水や開発等による周辺地下水への影響の予測、対策の効果の検証等を実施。



江津湖の湧水量調査 財団

- ・くまもと地下水財団により、定期的に江津湖の湧水量を調査。



その他地下水涵養以外の取組み 県

- ・有明工業用水道の未利用水を活用した半導体関連企業への給水に向けた取組みを推進。
- ・地下水取水量削減に向け、工場内使用水の再利用に係る先進地調査を実施。

【地下水涵養指針改正】 地下水取水量が増える場合、見合う量の涵養義務として、涵養量1割から10割に。

くまもと地下水財団による冬期湛水事業 財団

- ・平成24年度から、益城町、甲佐町、御船町、西原村、大津町等の台地部の水田において、11月から3月の非かんがい期に湛水事業を実施。
- ・令和4年度の推定涵養量は、**362万t**。
- ・令和5年度は、大津町の真木地区や矢護川地区で実施面積を拡大するとともに、白川中流域で初めてとなる冬期湛水事業を大津町瀬田地区で試験的に実施するなどの取組みにより、涵養量を**約200万t拡大**。**令和6年度はさらに拡大見込み**。



(左) 大津町真木 (右) 大津町瀬田地区

セミコンテックパーク

合志市

大津町

白川中流域

主食用米の作付面積拡大

菊陽町、大津町、JA菊池等

- ・令和6年8月、県の立ち合いのもと、JASMとJA菊池等の間で米の作付面積拡大に向け、協定を締結。
- ・地元産の米を通常単価に農家への支援金を上乗せして購入し、社員食堂で使用する新たな仕組みを構築。
- ・令和6年4月にJASMが開始しており、**段階的に参加企業業を拡大し、涵養量として最大300万tの増を計画**。



県・JA菊池等による水田の作付推進に関する協定

水循環型営農推進協議会による白川中流域水田湛水事業

おおきく土地改良区、熊本市、菊陽町、大津町

- ・平成16年度から、白川中流域（主に菊陽町、大津町）の転作田において、営農の一環として、作付けの合間に1～3か月間の湛水を実施。
- ・令和6年度、従来の夏期湛水に加え、新たに冬期湛水を開始予定。冬期湛水による涵養量は**約330万tの見込み**。



- ・また、令和6年度は、農家への協力金の引き上げの効果もあり、同協議会全体の涵養量が、令和5年度の1,592万tから**約2,800万tと約1,200万t増の見込み**。



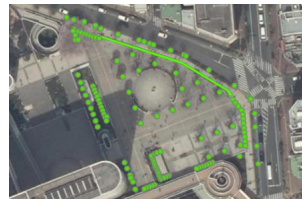
令和6年6月28日
 総合政策局環境政策課

「先導的グリーンインフラモデル形成支援」の重点支援団体が決定しました

国土交通省では、「先導的グリーンインフラモデル形成支援」の重点支援団体として、グリーンインフラに取り組む地方公共団体4地域を決定しました。

重点支援団体に対しては、コンサルタントや専門家の派遣等を通じて、計画づくりや推進体制の構築等を支援し、グリーンインフラの実装を加速します。

○重点支援団体（北から順）

団体名	取組概要
横瀬町 (埼玉県秩父郡)	町のシンボルである武甲山や寺坂棚田などを含めた町全体が、人と自然が調和し共存するエコシステムとなることを目指し、横瀬駅を含めたまちなかエリアに産学官民が交流・共創できるグリーンインフラ推進拠点を整備する。  寺坂棚田と武甲山
さいたま市 (埼玉県)	樹木及び農地等におけるグリーンインフラの機能に着目した評価指標、民間企業のノウハウを生かした測定方法を立案するとともに、公園や緑地、農地などを対象にグリーンインフラの持つ機能の可視化を試行する。  鐘塚公園の樹木プロット図
杉並区 (東京都)	雨水流出抑制対策をはじめ幅広い分野での課題解決の手法として、グリーンインフラを活用・実装していく視点を職員に浸透させ、担当している事業の解決策のひとつとして実感できるような研修プログラムの企画・運営に取り組む。  みどりを活用するイメージ
熊本県	「熊本県地下水保全推進本部」のもと、流域全体で地下水涵養域の維持に向けた検討を進める。多岐にわたる関係者の共通理解を深めるため、事例研究や技術情報の展開を目的とした勉強会を企画・開催する。涵養域の維持に向けた取組を継続的に実施するため、柔軟な資金調達手法について検討を行う。  雨庭（熊本県立大学）

○別紙

令和6年度先導的グリーンインフラモデル形成支援 概要

＜問い合わせ先＞

総合政策局環境政策課 担当：高森、鎌田、瓜生

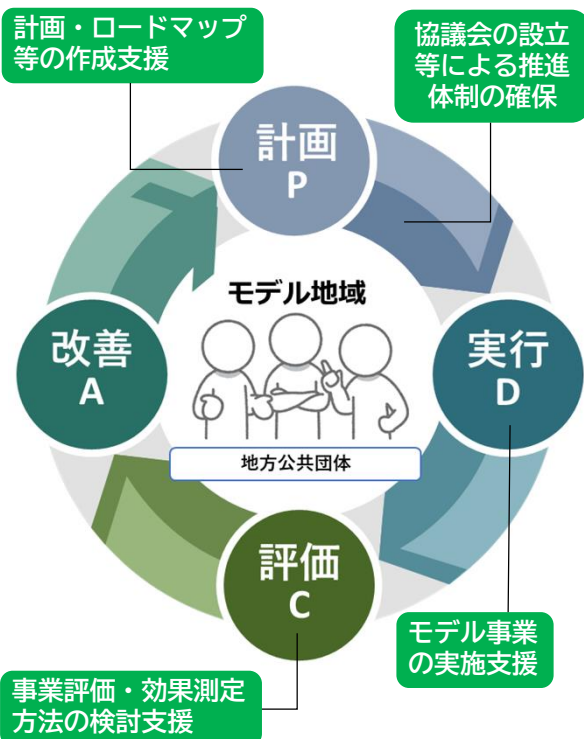
TEL：03-5253-8111（内線 24422、24332）、03-5253-8262（直通）

概要

- ✓ 国土交通省「先導的グリーンインフラモデル形成支援」は、グリーンインフラ実装に取り組む地方公共団体に対し、先導的なグリーンインフラモデルを形成するための支援を行い、事例の全国への展開を目指します。
- ✓ コンサルタントや専門家を派遣することで、構想・計画策定や体制構築等の事業組成に向けた支援や、事業効果の評価・測定方法の検討等による既存の取組の発展・評価に向けた支援を行います。

■ 主な支援メニュー

※支援メニュー例を踏まえつつ
支援対象団体の事業段階やニーズ
に応じた柔軟な支援を実施



構想計画

- ✓ ロードマップの作成
- ✓ アクションプランの作成
- ✓ 活用可能な予算制度の紹介
- ✓ 資金調達手法の検討 等

佐倉市での支援例

- ・ リーディングプロジェクトとその事業スキームのイメージを取りまとめたアクションプランの作成を支援



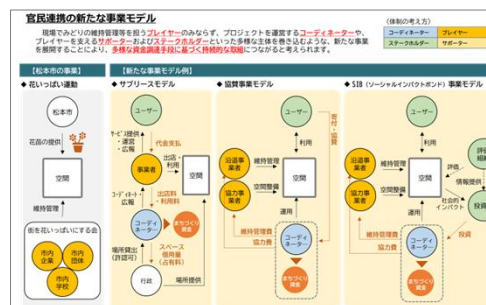
グリーンインフラに資する計画策定・体制整備

体制構築

- ✓ 協議会等の設置支援
- ✓ 関係機関との調整支援
- ✓ 有識者等による講演
- ✓ 勉強会の企画・開催支援 等

松本市での支援例

- ・ 多様な主体とその関わり方に着目した、官民連携による事業モデルを検討



技術支援

- ✓ 期待される効果の体系化
- ✓ 評価指標・測定方法の検討支援
- ✓ 事例等の技術情報の提供
- ✓ 地域イベントの開催支援
- ✓ 参画団体とのマッチング 等

いなべ市での支援例

- ・ シンポジウムの登壇者のコーディネート等を通じた地域イベントの開催を支援



グリーンインフラの事業化
(雨庭・ビオトープ等)

10/23 WED
2024
24 THU



熊本の教訓を世界へ そして未来へ

熊本地震や集中豪雨など
大規模自然災害を経験した熊本で、
命を守る対策と創造的復興を学ぶ。

Lessons from Kumamoto for the World and the Future

Learn about life-saving measures
and creative reconstruction in
Kumamoto, which has experienced
large-scale natural hazards such
as earthquakes and torrential
rains.



<https://tsunamisummit2024.pref.kumamoto.jp>

「世界津波の日」2024

高校生サミット in 熊本 at 熊本城ホール

熊本中央区桜町3番40号

High School Students Summit on "World Tsunami Awareness Day" 2024 in Kumamoto

at KUMAMOTO-JO HALL
3-40 Sakura-machi, Chuo-ku, Kumamoto City



**WORLD TSUNAMI
AWARENESS DAY**
5 NOVEMBER

世界約40カ国・地域、約500人の高校生が集い、
自然災害から命を守るため、
自分たちに何ができるかを議論し共に学びます。

Around 500 high school students from 40 countries and regions will
gather together to discuss and learn what they can do to protect their
lives from earthquakes, tsunamis, and other natural hazards.

併催イベント
Side Event



**ぼうさいこくたい
2024** in 熊本

National Conference on Promoting Disaster Risk Reduction

10/19 SAT → 20 SUN

開催場所/
熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場
Venue/
Kumamoto-Jo Hall, Kumamoto City International Center, Hanabata Hiroba Square



主催：熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会 共催：国連防災機関（UNDRR）神戸事務所

後援：国土強靱化推進本部、内閣府政策統括官（防災担当）、外務省、文部科学省、国土交通省、環境省、気象庁、経済協力開発機構（OECD）、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）、国際協力機構（JICA）、地球環境戦略研究機関（IGES）

Organizers: Kumamoto Prefecture, Kumamoto Prefectural Board of Education, Kumamoto City, Kumamoto City Board of Education Co-organizers: United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR) Kobe Office

Supporting Organizations: National Resilience Promotion Headquarters, Director General for Disaster Management, Cabinet Office of Japan, Ministry of Foreign Affairs of Japan, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology of Japan, Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism of Japan, Ministry of the Environment, Government of Japan, Japan Meteorological Agency,

Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD), Economic Research Institute for ASEAN and East Asia (ERIA), Japan International Cooperation Agency (JICA), Institute for Global Environmental Strategies (IGES)



開催概要

1 名 称 「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本

2 開催概要

11 月 5 日の「世界津波の日」は、津波の脅威と対策について理解と関心を深めることを目的に、2015 年 12 月の国連総会において日本が提唱し、我が国をはじめ 142 か国が共同提案を行い、全会一致で採択されました。翌 2016 年からは、世界各国の高校生が津波の脅威と対策について学ぶ場として、「世界津波の日」高校生サミットが開催されています。

熊本県では、世界最大級のカルデラを持つ阿蘇の雄大な草原、外海内海に面した島々や長い海岸線、1000m 級の山々が連なる九州山地とそこを源流とした河川が潤す大地など、人々は豊かな自然と共に暮らしています。

私たちは、この豊かな自然の恩恵を享受する一方、地震や豪雨、火山噴火など脅威にもさらされてきました。2016 年に震度 7 の激震に 2 度見舞われた「熊本地震」や、「2020 年 7 月豪雨」で多くの尊い命が奪われ、家屋倒壊等により生活の場が奪われるなど甚大な被害が発生しました。

これらの大災害に対し、私たちは、単に元の姿に戻すのではなく、よりよい復興を遂げ、更なる発展に繋げるという「創造的復興」を掲げ、日本全国、そして世界中から寄せられたたくさんの支援を力に、復旧・復興に取り組んできました。様々な災害を経験した私たちには、この経験や教訓を世界に発信し、継承していく使命があると考えています。令和 6 年能登半島地震においても、被災者支援や一日も早い復旧・復興の実現に向け全力で支援をしています。また、近い将来、発生が危惧される「南海トラフ地震」に備え、本県は、新たな県防災センターを中心に、九州を支える広域防災拠点機能の強化に取り組んでいます。

世界では 2023 年以降だけでもトルコ南東部地震、モロッコ地震、ハワイ州マウイ島の山火事、リビアの大洪水、台湾東部沖地震など、いずれも多数の犠牲者・被災者を出す大災害が頻発しています。また、気候変動の影響により気候関連ハザードが頻発化・激甚化しており、世界の持続可能な開発を進める上で、災害による被害の軽減は国際社会の重要な課題となっています。

私たちは、こうした世界共通の脅威である自然災害に対し、経験や教訓を通じて培った知識や技術を、国境を越えて持ち寄り、相互理解と連携により、防災・減災、国土強靱化に取り組む必要があります。特に地震をはじめとする災害の頻発国である日本として、災害の経験や教訓、それに基づく防災の取組の知見を世界に共有し、世界の災害リスクの軽減に貢献する意義は大きいと考えます。

本年は熊本において、地震や津波などの自然災害による被害を最小化し、国土強靱化を担う将来のリーダーの育成と世界各国の「きずな」を一層深めることを目的に、「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本を開催します。

3 主 催 熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会

4 共 催 国連防災機関（UNDRR）神戸事務所

5 後 援 国土強靱化推進本部、内閣府政策統括官（防災担当）、外務省、
文部科学省、国土交通省、環境省、気象庁、経済協力開発機構（OECD）、
東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）、国際協力機構（JICA）、
地球環境戦略研究機関（IGES）

6 開催日 2024 年 10 月 23 日(水)～10 月 24 日(木)

7 会 場 熊本城ホール（熊本市中央区桜町 3 - 40）他

8 参加者（予定） 高校生 524 名（国内 314 名、海外 210 名）

区分			高校生
国内参加者	県内	27 校	182 名
	県外	51 校	132 名
小計		78 校	314 名
海外参加者	42 ヲ国・地域		210 名
合計			524 名

9 使用言語 英語

10 プログラム（予定）

1 日目（10 月 23 日(水)）

2 日目（10 月 24 日(木)）

9:00-14:00	分科会（発表・討論）	9:00- 9:30	記念植樹・記念碑除幕式 @くまもと街なか広場
14:00-15:30	開会式 ・主催者挨拶(熊本県知事) ・来賓挨拶(熊本県議会議 長、熊本市議会議長) ・スタディツアー報告 等	10:00-12:00	総会・閉会式 ・主催者挨拶(熊本市長) ・分科会報告 ・大会宣言発表 等
15:30-16:30	分科会（討論・総括）		
16:30-17:00	展示ブース見学		
18:00-19:30	レセプション @ホテル日航熊本		

※開会式と総会・閉会式については、WEB でライブ配信予定です。

※時間は、今後、変更となる場合があります。

※なお、海外参加者は次のプログラムにも参加します。

	プログラム
10 月 21 日(月)	スタディツアー
10 月 22 日(火)	3 班に分かれ、それぞれの訪問地において防災・減災の取組を学ぶ とともに、地元高校生との交流等を行う。 [1 班訪問地] 球磨川流域方面 [2 班訪問地] 阿蘇方面 [3 班訪問地] 天草方面

11 テーマ・分科会

(1) 全体テーマ

“熊本の教訓を世界へ、そして未来へ”

～熊本地震や集中豪雨など大規模自然災害を経験した熊本で、
命を守る対策と創造的復興を学ぶ～

(2) 分科会の分野

(自助・共助で防災を考える)

災害はどこでも起こりえます。地域の災害リスクを理解・予測し、日常的に備えるとともに、命を守るために必要な行動を考えます。

(自然との共生で減災を考える)

自然は人々の生活に恩恵をもたらす一方、幾度も災害を引き起こしてきました。自然を守りながら被害を回避・軽減する取組を考えます。

(大規模災害を教訓として創造的復興を考える)

災害からの復旧・復興について、単に元に戻すのではなく、よりよい復興を遂げ、将来の発展に繋がるような創造的復興を考えます。

資料3-1

「世界津波の日」2024高校生サミット in 熊本
国内参加高校・参加者数一覧(予定)

合計 国内(78校) 高校生314名

■県内(27校) 高校生182名

No.	都道府県	区分	学校名	No.	都道府県	区分	学校名
1	熊本県	公立	済々黌高等高校	15	熊本県	公立	天草高等学校
2	熊本県	公立	熊本高等高校	16	熊本県	公立	上天草高等学校
3	熊本県	公立	第一高等高校	17	熊本県	公立	熊本工業高等学校
4	熊本県	公立	第二高等学校	18	熊本県	公立	玉名工業高等学校
5	熊本県	公立	熊本西高等学校	19	熊本県	公立	南稜高等学校
6	熊本県	公立	熊本北高等学校	20	熊本県	公立	必由館高等学校
7	熊本県	公立	玉名高等学校	21	熊本県	私立	九州学院高等学校
8	熊本県	公立	鹿本高等学校	22	熊本県	私立	開新高等学校
9	熊本県	公立	大津高等学校	23	熊本県	私立	尚綱高等学校
10	熊本県	公立	高森高等学校	24	熊本県	私立	熊本信愛女学院高等学校
11	熊本県	公立	宇土高等学校	25	熊本県	私立	熊本中央高等学校
12	熊本県	公立	八代高等学校	26	熊本県	私立	文徳高等学校
13	熊本県	公立	水俣高等学校	27	熊本県	私立	菊池女子高等学校
14	熊本県	公立	人吉高等学校				

■県外(51校) 高校生132名

No.	都道府県	区分	学校名	No.	都道府県	区分	学校名
1	北海道	公立	北海道浦河高等学校	27	三重県	公立	三重県立四日市高等学校
2	北海道	公立	北海道滝川高等学校	28	三重県	公立	三重県立津工業高等学校
3	北海道	公立	札幌市立札幌旭丘高等学校	29	大阪府	公立	大阪府立高石高等学校
4	北海道	公立	札幌市立札幌開成中等教育学校	30	大阪府	私立	学校法人創価学園関西創価高等学校
5	北海道	私立	学校法人札幌日本大学学園 札幌日本大学高等学校	31	兵庫県	国立	神戸大学附属中等教育学校
6	宮城県	公立	宮城県多賀城高等学校	32	兵庫県	公立	兵庫県立明石北高等学校
7	宮城県	公立	宮城県仙台第三高等学校	33	兵庫県	公立	兵庫県立姫路東高等学校
8	宮城県	公立	宮城県仙台第一高等学校	34	兵庫県	私立	学校法人滝川学園滝川高等学校
9	宮城県	公立	宮城県気仙沼高等学校	35	奈良県	国立	奈良女子大学附属中等教育学校
10	栃木県	公立	栃木県立佐野高等学校	36	奈良県	公立	奈良県立畝傍高等学校
11	埼玉県	公立	埼玉県立不動岡高等学校	37	奈良県	私立	学校法人奈良育英学園 奈良育英高等学校
12	東京都	国立	東京学芸大学附属国際中等教育学校	38	和歌山県	公立	和歌山県立耐久高等学校
13	東京都	公立	東京都立国分寺高等学校	39	和歌山県	公立	和歌山県立那賀高等学校
14	東京都	私立	学校法人富士見丘学園 富士見丘高等学校	40	和歌山県	公立	和歌山県立向陽高等学校
15	東京都	私立	学校法人井之頭学園藤村女子高等学校	41	岡山県	公立	岡山県立岡山操山高等学校
16	神奈川県	公立	横浜市立南高等学校	42	愛媛県	公立	愛媛県立松山南高等学校
17	神奈川県	公立	神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校	43	愛媛県	公立	愛媛県立宇和島東高等学校
18	神奈川県	公立	横須賀市立横須賀総合高等学校	44	高知県	公立	高知県立室戸高等学校
19	新潟県	公立	新潟県立高田高等学校	45	高知県	公立	高知県立高知国際高等学校
20	新潟県	公立	新潟県立三条高等学校	46	高知県	公立	高知県立大方高等学校
21	新潟県	私立	学校法人石善学園新潟第一高等学校	47	福岡県	公立	北九州市立高等学校
22	石川県	公立	石川県立輪島高等学校	48	福岡県	私立	学校法人明治学園 明治学園中学校・高等学校
23	石川県	公立	石川県立七尾高等学校	49	大分県	公立	大分県立佐伯鶴城高等学校
24	岐阜県	公立	岐阜県立岐南工業高等学校	50	宮崎県	公立	宮崎県立五ヶ瀬中等教育学校
25	静岡県	私立	学校法人新静岡学園 静岡学園高等学校	51	鹿児島県	私立	学校法人原田学園 鹿児島情報高等学校
26	愛知県	私立	学校法人愛知真和学園大成高等学校				

～ 「事前学習会」 の実施報告 ～

〔日時〕 令和6年（2024年）8月1日（木）10：00～15：25

※同日・同会場にて、サミット分科会でファシリテーターを担う英語教員・ALTの研修会も実施

〔場所〕 熊本県防災センター

〔対象〕 サミットに参加する県内高校生157名、高校生議長等5名

〔目的〕 サミットに参加する県内高校生が一堂に会し、気象変動による災害と熊本県の災害を学ぶことで、防災・減災・復興の取組等について理解を深めるとともに、サミット当日を想定したプレゼンテーションやディスカッションの練習を行い英語での発信力を高める。

〔プログラム〕

時間	項目	内容
10:00-10:10	開会	
10:10-12:00	防災学習Ⅰ	【見学】 オペレーションルーム、展示・学習室
	防災学習Ⅱ	【講義】 「自然災害と防災気象情報」 ※熊本地方気象台
12:00-13:00	（昼食）	記念撮影を含む
13:00-13:30	英語学習Ⅰ	【講義】 「高校生サミット分科会の進め方と効果的なプレゼンテーション」
13:30-14:15	英語学習Ⅱ	【演習】 「模擬プレゼンテーション」
14:25-15:15	英語学習Ⅲ	【演習】 「模擬ディスカッション」
15:15-15:25	閉会	

～高校生議長等の挨拶～



～防災学習の様子～



～英語学習の様子～



令和6年(2024年)8月19日現在

※五十音順

「世界津波の日」2024高校生サミットin熊本
海外招聘国・地域(予定)

高校生210名(42カ国・地域)

アンゴラ
インド
インドネシア
オーストラリア
オランダ
カナダ
韓国
カンボジア
キリバス
クック諸島
サモア
シンガポール
スリランカ
ソロモン
タイ
台湾
中国
チリ
ツバル
ドイツ
トルコ
トンガ
ナウル
ニュージーランド
バヌアツ
パプアニューギニア
パラオ
フィジー
フィリピン
ブラジル
フランス
ブルネイ
米国(ハワイ)
ベトナム
ペルー
マーシャル
マレーシア
ミクロネシア
メキシコ
モルディブ
モンゴル
ラオス

令和6年(2024年)8月19日現在

～ 若き津波防災大使 スタディツアー(予定) ～

<目的>

サミットに参加する海外高校生が3班に分かれ、それぞれの訪問地において、防災・減災の取組を学ぶとともに、地元高校生との交流等を行う。

<参加者>※現時点

海外高校生210名(42ヶ国・地域)

<日程>

令和6年(2024年)10月21日(月)～10月22日(火)

<主な訪問先>※現時点

	球磨川流域方面 <1班>		阿蘇方面 <2班>			天草方面 <3班>		
	1号車	2号車	3号車	4号車	5号車	6号車	7号車	8号車
10/21 (月)	熊本城 南稜高校	熊本城 人吉高校 青井阿蘇神社	断層見学 (益城町) 大津高校 トロッコ鉄道	断層見学 (@益城町) 阿蘇中央高校 阿蘇神社	高森高校 トロッコ鉄道 阿蘇神社	熊本城 宇土高校 防災学習 (上天草市)	熊本城 上天草高校 防災学習 (上天草市)	熊本城 天草クリスタル館 防災学習 (天草市)
10/22 (火)	語り部 球泉洞(球磨村) 防災訓練 (八代港)	人吉クラフトパーク 語り部(球磨村) 防災訓練 (八代港)	KIOKU 火山博物館 熊本城	火山博物館 KIOKU 熊本城	火山博物館 KIOKU 熊本城	イルカウォッチング 天草四郎ミュージアム 防災学習 (宇城市)	三角西港 松合食品見学 防災学習 (宇城市)	天草高校 三角西港 防災学習 (宇城市)

天草方面<3班>

三角西港



(出典) 宇城市 HP

島原大変講義(防災学習)



(出典) 肥前国島原津波之絵図(熊本大学永青文庫蔵)

イルカウォッチング



阿蘇方面<2班>

KIOKU(熊本地震震災ミュージアム)



トロッコ鉄道



球磨川流域方面<1班>

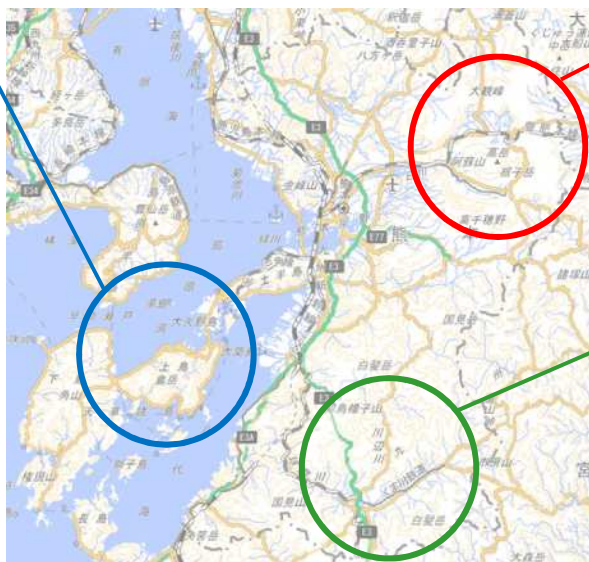
青井阿蘇神社



球磨村 語り部



(出典) アークアイブくまむら HP



(出典) 国土地理院発行地形図

※今後変更の可能性あり。

～ 高校生議長等の御紹介 ～



議長
熊本県立熊本高等学校
河合 智彩

「世界津波の日」高校生サミットは2015年の国連総会において、「世界津波の日」が制定されたことをきっかけに翌2016年から開催されるようになりました。このたび第6回目のサミットが、2024年10月23日、24日の二日間、熊本城ホールで開催されます。本サミットでは世界各国の多くの高校生が参加し、議論を通じて自然災害の脅威や対策への理解を深め、継続的な関心を持ち続け、将来の防災リーダーを育成することを目的としています。さらにお互いの交流を通じて世界中の高校生同士の絆を深めて行きます。このような名誉ある大会の議長職を務めるという貴重な機会をいただけたことに心より感謝申し上げます。

2016年4月14日及び16日に熊本県を中心に最大震度7を記録する大地震が発生しました。熊本県でも地域住民の懸命の努力による救命活動や復興が行われてきましたが、同時に世界中の人々から多くの支援をいただきました。その時のせめてもの恩返しとして、私たち熊本県民の経験を今後の自然災害や防災の取り組みに生かすことができれば幸いです。



副議長
熊本市立必由館高等学校
塩島 杏梨

今回の「世界津波の日」高校生サミットは、国内外約500名の高校生が熊本で一同に会して開催されます。

私はドイツで約14年間生活していました。およそ1年前に熊本県に移住してきましたが、阿蘇の世界最大級のカルデラなど、熊本の自然の豊かさを実感しています。一方、熊本県はこれまで多くの自然災害を経験してきました。近年では、2016年の熊本地震、2020年の7月豪雨において甚大な被害を受けました。しかし、多くの自然災害に見舞われてきたからこそ、熊本県で今回のサミットが開催されることに大きな意義があると感じています。

今回のサミットでは、防災・減災・創造的復興についてのアイデアを、世界中から集まったメンバーと考え、共有します。それらのアイデアを世界に発信することで、世界中の人々がこれまで以上に自然災害について高い意識を持つきっかけとなしてほしいです。

自然災害の脅威に立ち向かうためには、人々の協力が必要不可欠です。今回のサミットが、国境を超えた「きずな」を育む場になることを心から願っています。



副議長
九州学院高等学校
渡辺 樹李亜

これまでに、高知県、沖縄県、和歌山県、北海道、新潟県で開催されたこのサミットが、今年2024年は熊本で開催されることとなりました。

このサミットでは、「何を学ぶのか」は勿論、「学んだことをどう伝え、繋げていくのか」と言う事に力を入れ、国際社会に発信する場となる事を期待しています。

今回のサミットのテーマは、“熊本の教訓を世界へ、そして未来へ” 近年熊本では、2016年の「熊本地震」や2020年の「令和2年7月豪雨」を経験しました。

特に、熊本地震は私達熊本市の高校生にとってはテレビの向こう側であったような遠い出来事などではなく、実際に体験した現実です。実際に災害を経験しているからこそその学びや伝えられることがあると思います。

未来の社会の担い手である私達高校生が交流を深め、実りある議論が出来る様、精一杯努力していきます。

10月、皆様に会えることを心待ちにしております。



司会
熊本県立東稜高等学校
石川 正宣

2年ぶり6回目の「世界津波の日」高校生サミットが、私の地元、熊本で開催されることをとても光栄に思います。今年は年始に能登半島地震が発生し、また津波も観測されました。発災から数ヶ月経った今でも復旧の目処が立たない地域もあり、一日も早い復旧を願っています。

ここ熊本でも直近10年で熊本地震や豪雨災害を経験しています。実際に私も熊本地震で震度7を二度経験しました。そのときに体験して得た気づきや思いなどを今回の高校生サミットで発信し、サミットに集う皆さんの経験や意見を共有することで、有意義な大会にしたいと思っています。そして、防災意識の輪が世界中に広がることを強く願います。

私は今回、司会としてサミットの進行を務めます。皆さんの活発な議論の手助けができるよう精一杯頑張ります。10月に皆さんとお会いできることを楽しみにしています。



司会
熊本県立済々黉高等学校
伊藤 功佑

今年1月、石川県能登半島で、地震と津波が発生しました。地震発生時、ニュースでは語気を強めて避難を呼びかけるアナウンサーの方が話題になりました。命を守ることを最優先に考えて必死に避難を呼びかける姿に、緊迫した状態であると感じて避難をした方がたもたくさんいたことでしょう。

熊本でも地震や豪雨など、過去に何度も自然災害が起こりました。自然災害は、人の意思に関係なく発生するものであり、それを止めたり変えたりすることはできません。しかし、変えられるものがあります。それは、災害に向き合う私たちの行動です。「過去から学ぶ」ということは、「自分たちの行動を変える」ということです。先のアナウンサーは、まさに過去から学び行動に移した例だと思います。

私たち高校生が本サミットにおいて、防災・減災・復興についてお互いに学び合い、それをもとに自分たちにできることを考えて行動に移すことで、地域社会を変えることができます。地域社会を変えることができれば、世界全体に対して情報を発信することになり、世界全体で防災についての意識が高まり、人々が命を守る行動ができるようになると思います。

本サミットでは、私自身も司会として自分のできる精一杯の努力をして参ります。参加される皆さんの深い学びと、そこから行動に移すきっかけになるように、お互いに活発に議論していきましょう。



司会
熊本県立八代高等学校
吉沢 ゆい

今回の「世界津波の日」高校生サミットではテーマとして「熊本の教訓を世界へ、そして未来へ」が設定されています。熊本地震や令和2年7月豪雨など数多の自然災害に見舞われてきた熊本にとって「復興」という指標は私達を励まし、前向きに生活していくことを可能にさせてくれます。地震の影響で一部が損壊してしまった熊本城は最先端の技術と昔から受け継がれてきている伝統技術を効果的に組み合わせて再建が進められており、その光景は私達を勇気づけています。

その為、「復興」というキーワードを基に自然災害から回復を遂げつつある熊本の教訓を生かし、世界での復興の在り方を議論していく機会にしたいです。

このサミットは日本全国、世界中から自然災害への解決の糸口を掴む為のアイデアを持った高校生が考えを発信し、共有できる貴重な機会です。

世界中で自然災害が多発している今日、世界各国が共通意識を持ち、共に協力して取り組んでいかなければなりません。

このサミットを通して被害に遭われる方々を一人でも多く救えることを心から願っています。



ぼうさいこくたい

2024 in 熊本

みんなで
行くモン!!



第9回防災推進国民大会

復興への希望を、
熊本から全国へ
～伝えるばい熊本!
がんばるばい日本!～



写真提供：熊本城聯合事務所

開催日

10/19土・20日

10:00～18:00(予定) 10:00～15:30(予定)

開催場所

熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場

詳しくはWEBサイトで! ぼうさいこくたい 検索



入場・参加
無料
一部オンラインでも
観覧予定

主催：防災推進国民大会2024実行委員会(内閣府・防災推進協議会・防災推進国民会議) 協力：熊本県・熊本市

併催
イベント

「世界津波の日」2024
高校生サミット in 熊本

創造的
復興見学ツアー



詳細は裏面を
ご覧ください

ぼうさいこくたい併催イベントのご案内

ぼうさいこくたいと連携して、開催地である熊本県が以下の2つのイベントを主催します。こちらもぜひご参加ください

創造的 復興見学ツアー

10/21月

プラン1

熊本地震(阿蘇方面)

桜町バスターミナル

震災ミュージアム KIO KU、
旧東海大学阿蘇キャンパス、
旧長崎西部小学校、
数産道徳の碑 展望所
(途中、昼食休憩)

道の駅 あそ望の郷くぎの

益城町市田川断崖帯

桜町バスターミナル



実施主体

主催：熊本県(危機管理防災課) 事務局：株式会社日本旅行熊本支店

お問い合わせ

株式会社日本旅行 熊本支店 営業時間 平日 9:30～17:30(土日祝は休務)
TEL:096-354-4480 Email: bousai-kumamoto2024@nta.co.jp

プラン2

令和2年7月豪雨(人吉・球磨方面)

桜町バスターミナル

球磨村総合運動公園さくらドーム
(球磨村災害復興ガイド)

昼食休憩

観光複合施設 HASSENBA、
青井阿蘇神社周辺

桜町バスターミナル



詳細日程は
こちらから
<https://va.apollon.nta.co.jp/bousai-kumamoto2024/>



【金額】

参加費には昼食代、施設入
場料、体験料を各自負担
いただきます。

【催行時間】

催行時間は9時～15時30
分を予定しております。

【定員】

定員は各プラン35名程度(先
着順)を予定しております。

【プラン】

プラン1、プラン2のどちら
かをお選びいただき、ご希望
のプランに参加いただきます。



©2010 熊本県くまモン

「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本

ライブ配信 (●●)

10/23 24
2024 WED THU

熊本地震や令和2年7月豪雨といった自然災害の経験や教訓を次世代へ継承し、将来の防災・減災のリーダーの育成と世界各国のさすなを一層深めることを目的に「世界津波の日」高校生サミットを開催します!

視聴をご希望の方は公式HPをご覧ください

※会場での観覧はできません。



全体
テーマ

“熊本の教訓を世界へ、そして未来へ”

～熊本地震や集中豪雨など大規模自然災害を経験した熊本で、命を守る対策と創造的復興を学ぶ～

世界40カ国・地域、約500人の高校生が集い、自然災害から命を守るため、自分たちに何ができるかをディスカッションし、宣言文としてとりまとめ、総会・閉会式で報告します。

「世界津波の日」2024 高校生サミット in 熊本実行委員会(熊本県、熊本県教育委員会、熊本市、熊本市教育委員会)

◆ 防災推進国民大会（ぼうさいこくたい）とは

- 防災に取り組む多様な団体・機関が全国から集まり、それぞれの取り組み・知見を発信・共有する日本最大級の防災イベント
- 2日間にわたり、多くの団体・機関が参加し、防災に関する様々な講演、体験型ワークショップ、ブース展示、屋外展示等を実施

◆ 2024大会概要 ※九州初開催

- テーマ：復興への希望を、熊本から全国へ
～伝えるばい熊本！がんばるばい日本！～
- 主 催：防災推進国民大会2024実行委員会
(内閣府、防災推進協議会、防災推進国民会議)
- 協 力：熊本県、熊本市
- 開催日：令和6年(2024年)10月19日(土) 10:00～18:00
20日(日) 10:00～15:30
- 会 場：熊本城ホール、熊本市国際交流会館、花畑広場
- 対象者：防災に関心のある方、学びたい方
- 入場料：無料
- 出展想定数：約400団体
- 出展タイプ：セッション、ワークショップ、ブース展示、ポスター展示、屋外展示、ステージ発表、出展団体オリジナル企画(現地出展+オンライン)

➡ 日本全国から過去最多の出展及び1万人以上の来場が見込まれる

★詳細はコチラから→ ぼうさいこくたい2024公式サイト
<https://bosai-kokutai.jp/2024/>



◆ 県・市の取組内容

- 大会に向けた現地情報共有・連携会議の開催
- 主催セッション(パネルディスカッション)等の実施
- 熊本地震や令和2年7月豪雨災害の被災地を回る創造的復興見学ツアーの実施
- 大会の認知度向上や県内の機運醸成のための広報活動

◆ 開催までのスケジュール(予定)

- R6.3月 第1回現地情報共有・連携会議(14日)
(大会概要説明・情報共有)
- R6.4月 【内閣府】出展者公募案内公表、公募説明会(22日)、
出展者募集(～5/24)
第2回現地情報共有・連携会議(25日)
(団体の活動内容、関心のあるテーマ等の情報共有)
- R6.5月 第3回現地情報共有・連携会議(16日)
(グループに分かれ企画内容を具体化)
- R6.7月 【内閣府】出展者決定
- R6.8月 【内閣府】出展者説明会①(2日)
- R6.9月 【内閣府】出展者説明会②(9日)
第4回現地情報共有・連携会議(26日)
(出展者からの企画内容共有)

<参考：2023大会の様子>



- 開催地：横浜国立大学(オンライン同時開催)
- 出展団体数：383団体、来場者数：約16,000人

◆ セッション

(1) オープニングセッション〈主催：内閣府〉

19日(土)10:30~12:00	
セレモニー	くまモン、おもてなし武将隊
開会挨拶	内閣府防災担当大臣、防災推進協議会会長、 熊本県知事、熊本市長
基調講演	元熊本県危機管理防災企画監 有浦 隆 氏

(2) ハイレベルセッション〈主催：内閣府〉

19日(土)12:30~14:00	
テーマ	熊本地震とその後の復興と災害への備え(仮題)
登壇者 (予定)	内閣府防災担当審議官 前熊本県知事 蒲島 郁夫 氏 元熊本市副市長 高田 晋 氏 熊本県内の防災及び共助の専門家 石川県支援関係者

(3) 熊本県セッション

19日(土)14:30~16:00	
テーマ	地震と豪雨の経験・教訓を未来へつなぐ(仮題)
登壇者 (予定)	跡見学園女子大学教授 鍵屋 一 氏 (進行) NPO法人 益城だいすきプロジェクト・きまみに 代表 吉村 静代 氏 医療法人 明佑会 峯苦医院 事務局長 皆吉 秀太 氏 フリーアナウンサー 武田 真一 氏 (一社)熊本県介護福祉士会 会長 石本 淳也 氏

(4) クロージングセッション〈主催：内閣府〉

20日(日)14:30~15:30	
セレモニー	大会ダイジェスト映像、 「世界津波の日」2024高校生サミット関係者メッ セージ
閉会挨拶	内閣府防災担当副大臣、日本消防協会会長 等

※この他、熊本市セッションも実施予定

◆ ブース展示・屋外展示

	担当所属	出展内容
県	①危機管理防災課 循環社会推進課	・過去の災害の経験・教訓を踏まえた防災の取組 ・過去の災害時の災害廃棄物処理の取組
	②球磨川流域復興局	・「緑の流域治水」の取組 ・令和2年7月豪雨からの復旧・復興状況
	③技術管理課	・地籍調査に関する九州8県の取組
	④道路整備課	・10分・20分構想及び県内高規格道路の整備に 関する取組(熊本市と共同出展)
	⑤建築家、住宅課、 砂防課	・「みんなの家」、熊本型木造仮設住宅の取組 ・過去に発生した土砂災害への対応・取組
	⑥健康福祉政策課、 医療政策課	・すまいの再建支援や個別避難計画等の取組 ・過去の災害時のDMAT・DWAT等の活動
	⑦観光国際政策課	・熊本地震震災ミュージアムKIOKUの取組
	⑧農村計画課	・田んぼダムの取組
	⑨警察本部 (屋外展示)	・警察車両、装備資機材 ・過去の災害時の活動状況
市	①環境政策課	・生物多様性保全の取組(Eco-DRR)
	②市街地整備課	・防災及び帰宅困難者対策に関するクイズ
	③都市安全課	・宅地液化化防止の取組
	④消防局 (屋外展示)	・災害発生時の支援車両 ・災害を想定したVR体験

◆ 創造的復興見学ツアー

- 主 催：熊本県
- 趣 旨：熊本地震及び令和2年7月豪雨災害の被災状況や創造的
復興の取組状況をより近い距離で体感いただく
- 開催日：10月21日(月) 9:00~15:30(予定)

※ 詳細は次ページ参照

- 主 催：熊本県
- 趣 旨：熊本地震及び令和2年7月豪雨災害の被災状況や創造的復興の取組状況をより近い距離で体感いただく
- 開催日：10月21日（月）9:00～15:30（予定）
- 訪問先：①熊本地震（阿蘇・益城）方面、②令和2年7月豪雨（人吉・球磨）方面（どちらかを選択）
- 参加者：大会参加者のうち希望する方（各方面35名、計70名程度）

コース①：熊本地震（阿蘇・益城）方面

桜町バスターミナル



震災ミュージアムK I O K U、
旧東海大学阿蘇キャンパス、



旧長陽西部小学校、
数鹿流崩之碑 展望所



道の駅 あそ望の郷くぎの



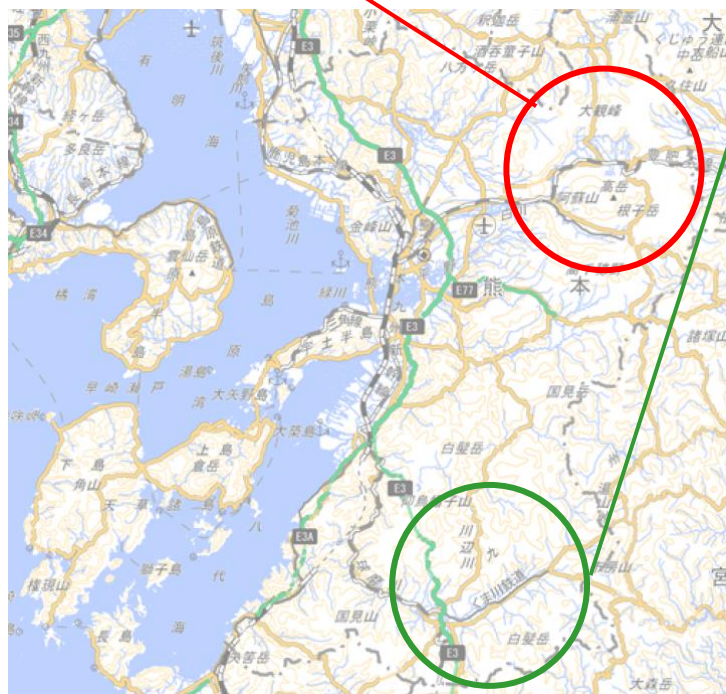
益城町布田川断層帯



〔出典〕益城町 HP



桜町バスターミナル



〔出典〕国土地理院発行地形図

コース②：令和2年7月豪雨 （人吉・球磨）方面

桜町バスターミナル



球磨村総合運動公園
さくらドーム
（球磨村災害語り部ガイド）



〔出典〕アーカイブくまむら HP



観光複合施設HASSENBA、



青井阿蘇神社周辺



桜町バスターミナル

※行程・訪問先は変更となる可能性あり